

核兵器のない平和な社会を創りましょう

“非核・平和を祈念する市民の集い”も11回目を迎えました。今年から鎌ヶ谷市の後援となり市長からのメッセージも届きました。参加団体も増えて50名以上の市民が8時に市役所裏の総合福祉保健センター入口にある被曝した広島市庁舎敷石・信用金庫の石のモニュメントの前に集まり8時15分に1分間の黙とうと献花を（2019年8月6日）。

折鶴会の小中武志さんからは8/6被爆時のお話を聞き、改めて核の恐ろしさ戦争の犯罪性を感じずにはいられませんでした。

広島の方が長崎より死亡した方の数が多いのは広島市に生徒たちやお母さんたちが動員されていたからという事実。又、いまだに数万人の方々が行方不明。熱線で焼けただれた人々が水を求めて河川に集まり、川という川には死体で埋まっていた事実。そして河口の島では多くの白骨遺体が発見される・・・「これが戦争です。絶対にやってはいけない」という言葉が重く心に響きます。

“核兵器禁止条約”は122カ国が賛成し出来ましたが日本政府は参加しようとしません。日本が依存する米国の“核の傘”を認めないからダメだとの理由・・・“世界で唯一の被爆国”は単なる枕詞なのでしょうか？

武力・核で平和は作れません。私たち一人一人の平和主義が問われています。



8月9日は長崎に核爆弾がおとされてから74年。6日に続き非核平和を願う市民が三十数名“かたぐるま”の前に集い、真夏の熱い熱い太陽の照りつけるなか11時02分に黙とう、そして献花をしました。

同じ時間に鎌ヶ谷市から派遣された中学生5名が長崎の式典に参加しています。かたぐるまの前では長崎で被爆した荒木さんのお話、折鶴会小中さんの歌「長崎の鐘」。一人一人の貴い命を奪ってしまう核兵器の非人道性が語られました。国際法上“戦争は違法”です。“核兵器は反人道的武器”です。でもなぜかなくなりません。核兵器が一日も早くこの地球上からなくなり、平和で安心して暮らせる社会にしたいものです。

8月6日・9日の非核平和を願う集いをもっと多くの市民と共に、そして市との共催の方向へと発展させうればと思われました。

“民主主義と自治そして平和主義” ふじしろ政夫 047-445-9144

*4/8以降の活動報告ホームページに掲載しています。

「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。